

放課後等デイサービスすろわ 運営規程

第1章 事業の目的等

(事業の目的)

第1条 特定非営利活動法人くまもとスローワーク・スクール（以下「事業者」という。）は、放課後等デイサービスすろわが行う放課後等デイサービス事業の適正な運営を実施するため、必要な人員体制及び運営管理に関する事項を定め、放課後等デイサービス事業の円滑な運営管理を図るとともに、対象児とその通所給付決定保護者の思いに寄り添い、対象児の人間性を十分理解・尊重した上で、対象児と通所給付決定保護者の思い描く着地点まで伴走していく放課後等デイサービスを提供していく。特に社会参加、就労準備に精通した事業所として、対象児の確かな将来像を形作るお手伝いすることを目的とする。

第2条 事業者は、通所給付決定保護者及び対象児の意向、対象児の適性、障がい特性その他の事情を踏まえた計画（以下「個別支援計画」という。）を作成し、これに基づき対象児に対して指定通所支援を提供するとともに、その効果について継続的な評価を実施することその他の措置を講ずることにより、対象児に対して適切かつ効果的に指定通所支援を提供することを目的とする。

2 事業者は、当該指定障がい児通所支援事業者等を利用する対象児の意思及び人格を尊重して、常に対象児の立場に立った指定通所支援の提供に努めるものとする。

3 事業者は、地域及び家庭との結び付きを重視した運営を行い、都道府県、市町村、障害者総合支援法（平成十七年法律第百二十三号）第五条第一項に規定する障害福祉サービス（以下「障害福祉サービス」という。）を行う者、児童福祉施設その他の保健医療サービス又は福祉サービスを提供する者との連携に努めるものとする。

4 事業者は、当該指定障害児通所支援事業者等を利用する対象児の人権擁護、虐待の防止等のため、責任者を設置する等必要な体制の整備を行うとともに、その従業者に対し、研修を実施する等の措置を講ずるよう努めるものとする。

(事業所の名称及び所在地)

第3条 本事業所の名称及び所在地は次の通りとする。

(1) 名称 放課後等デイサービスすろわ

(2) 所在地 熊本県玉名郡和水町上十町105番地

(提供する指定障がい児通所支援の種類、利用定員及び主たる対象とする障がいの種類)

第4条 事業者が本事業所において提供する指定障がい児通所支援の種類、利用定員及び主として対象者は次の通りとする。

指定障害児通所支援事業の種類	利用定員	事業の主たる対象とする障がいの種類
指定放課後等デイサービス	10名	知的、精神、発達障がいを持つ者

2 事業者は、前項の利用定員を超えて指定放課後等デイサービスの提供を行わないものとする。ただし、災害その他のやむを得ない事情がある場合は、この限りでない。

第2章 運営の方針及び虐待防止のための措置

(取扱方針)

第5条 事業者は、個別支援計画に基づき、対象児の心身の状況等に応じて、その者の支援を適切に行うとともに、指定放課後等デイサービスの提供が漫然かつ画一的なものとならないよう配慮するものとする。

2 指定放課後等デイサービス事業所の従業者は、指定放課後等デイサービスの提供に当たって、懇切丁寧を旨とし、通所給付決定保護者及びに対象児に対し、支援上必要な事項について、理解しやすいように説明を行うものとする。

3 事業者は、その提供する指定放課後等デイサービス事業の質の評価を行い、常にその改善を図るものとする。

(提供拒否の禁止)

第6条 事業者は、正当な理由がなく、指定放課後等デイサービスの提供を拒んではならない。

(サービス提供困難時の対応)

第7条 事業者は、指定放課後等デイサービス事業所の通常の事業の実施地域（当該指定放課後等デイサービス事業所が通常時に指定放課後等デイサービスを提供する地域をいう。）等を勘案し、利用申込に係る対象児に対し自ら適切な指定放課後等デイサービスを提供することが困難であると認められた場合、他の事業者の紹介等必要な措置を速やかに講じなければならない。

(指導、訓練等)

第8条 事業者は、対象児の心身の状況に応じ、対象児の自立の支援と日常生活の充実に資するよう、適切な技術をもって指導、訓練等を行うものとする。

2 事業者は、対象児が日常生活における適切な習慣を確立するとともに、社会生活への適応性を高めるよう、あらゆる機会を通じて支援を行うものとする。

3 事業者は、対象児の適性に応じ、対象児ができる限り健全な社会生活を営むことができるよう、より適切に指導、訓練等を行うものとする。

4 事業者は、常時一人以上の従業者を指導、訓練等に從事させなければならない。

5 事業者は、対象児に対して、対象児に係る通所給付決定保護者の負担により、指定放課後等デイサービス事業所の従業者以外の者による指導、訓練等を受けさせてはならない。

(社会生活上の便宜の供与等)

第9条 事業者は、教養娯楽設備等を備える他、対象児のためのレクリエーション行事を適宜行うものとする。

2 事業者は、常に対象児の家族との連携を図るよう努めるものとする。

(心身の状況等の把握)

第10条 事業者は、指定放課後等デイサービスの提供に当たって、対象児の心身の状況、その置かれている環境、他の保健医療サービス又は福祉サービスの利用状況等の把握に努めるものとする。

(指定障がい児通所支援事業者等との連携等)

第11条 事業者は、指定放課後等デイサービスの提供に当たって、都道府県、市町村、障害福祉サービスを行う者、児童福祉施設その他の保健医療サービス又は福祉サービスを提供する者との密

接な連携に努めるものとする。

- 2 事業者は、指定放課後等デイサービスの提供の終了に際し、対象児又はその家族に対して適切な援助を行うとともに、都道府県、市町村、障がい福祉サービスを行う者、児童福祉施設その他の保健医療サービス又は福祉サービスを提供する者との密接な連携に努めるものとする。

(身体拘束等の禁止)

第12条 事業者は、指定放課後等デイサービスの提供に当たって、対象児の生命又は身体を保護するため緊急やむを得ない場合を除き、身体的拘束その他対象児の行動を制限する行為（次項において「身体拘束等」という。）を行ってはならない。

- 2 事業者は、やむを得ず身体拘束等を行う場合には、その状況及び時間、その際の対象児の心身の状況並びに緊急やむを得ない理由その他必要な事項を記録しなければならない。

(虐待等の禁止)

第13条 指定放課後等デイサービス事業所の従業者は、対象児に対し、児童虐待の防止等に関する法律（平成十二年法律第八十二号）第二条各号に掲げる行為その他当該障がい児の心身に有害な影響を与える行為をしてはならない。

第3章 従業者の職種、員数及び職務内容

(従業者の職種、員数及び職務内容)

第14条 本事業所の従業者の職種、員数及び職務内容は次の通りとする。

(1) 管理者 1名

ア 事業所の管理者は、事業所の従業者及び業務の管理その他の管理を、一元的に行うものとする。

イ 事業所の管理者は、事業所の従業者にこの章の規定を遵守させるために必要な指揮命令を行うものとする。

(2) 児童発達支援管理責任者 1名

児童発達支援管理責任者は、指定放課後等デイサービスに係る個別支援計画の作成を行う。

(3) 児童指導員および保育士 1名以上

児童指導員は、個別支援計画に基づき、現在の能力の正確なアセスメントに基づき、段階的に無理なく日常生活動作の能力、社会生活の能力、コミュニケーション能力などの向上を図る支援を行う。

(4) 指導員 1名以上

指導員は、個別支援計画に基づき、現在の能力の正確なアセスメントに基づき、心身とも健康的に維持するための日常生活内のスキル獲得の支援を行う。

(個別支援計画の作成等)

第15条 指定放課後等デイサービス事業所の管理者は、児童発達支援管理責任者に個別支援計画の作成に関する業務を担当させるものとする。

- 2 児童発達支援管理責任者は、個別支援計画の作成に当たって、適切な方法により、対象児について、その有する能力、その置かれている環境及び日常生活全般の状況等の評価を通じて通所給

付決定保護者及び対象児の希望する生活並びに課題等の把握（以下この条において「アセスメント」という。）を行い、対象児の発達を支援する上で適切な支援内容の検討をするものとする。

- 3 児童発達支援管理責任者は、アセスメントに当たって、通所給付決定保護者及び対象児に面接するものとする。この場合において、児童発達支援管理責任者は、面接の趣旨を通所給付決定保護者及び対象児に対して十分に説明し、理解を得なければならない。
- 4 児童発達支援管理責任者は、アセスメント及び支援内容の検討結果に基づき、通所給付決定保護者及び対象児の生活に対する意向、対象児に対する総合的な支援目標及びその達成時期、生活全般の質を向上させるための課題、放課後等デイサービスの具体的内容、放課後等デイサービスを提供する上での留意事項その他必要な事項を記載した個別支援計画の原案を作成するものとする。この場合において、対象児の家族に対する援助及び当該指定放課後等デイサービス事業所が提供する指定放課後等デイサービス以外の保健医療サービス又は福祉サービスとの連携も含めて個別支援計画の原案に位置付けるよう努めるものとする。
- 5 児童発達支援管理責任者は、個別支援計画の作成に当たって、対象児に対する指定放課後等デイサービスの提供に当たる担当者等を招集して行う会議を開催し、個別支援計画の原案について意見を求めるものとする。
- 6 児童発達支援管理責任者は、個別支援計画の作成に当たって、通所給付決定保護者及び対象児に対し、個別支援計画について説明し、文書により、その同意を得なければならない。
- 7 児童発達支援管理責任者は、個別支援計画を作成した際、個別支援計画を通所給付決定保護者に交付するものとする。
- 8 児童発達支援管理責任者は、個別支援計画の作成後、個別支援計画の実施状況の把握（継続的なアセスメントを含む。次項において「モニタリング」という。）を行うとともに、対象児について解決すべき課題を把握し、少なくとも六月に一回以上、個別支援計画の見直しを行い、必要に応じて、当該個別支援計画の変更を行うものとする。
- 9 児童発達支援管理責任者は、モニタリングに当たって、通所給付決定保護者との連絡を継続的に行うこととし、特段の事情のない限り、次に定めるところにより行うものとする。
 - 一 定期的に通所給付決定保護者及び対象児と面接を実施すること。
 - 二 定期的にモニタリングの結果を記録すること。
- 10 第二項から第七項までの規定は、第八項に規定する個別支援計画の変更について準用する。
（児童発達支援管理責任者の責務）

第16条 児童発達支援管理責任者は、前条に規定する業務の他、次に掲げる業務を行う。

- (1) 次条に規定する相談及び援助を行う。
 - (2) 他の従業者に対する技術指導及び助言を行う。
- （相談及び援助）

第17条 事業者は、常に対象児の心身の状況、その置かれている環境等の的確な把握に努め、対象児又はその家族に対し、その相談に適切に応じるとともに、必要な助言その他の援助を行うものとする。

第4章 営業日及び営業時間

(営業日及び営業時間)

第18条 本事業所の営業日及び営業時間は次のとおりとする。

- (1) 営業日は、水曜日、木曜日、金曜日、土曜日とする。(お盆、年末年始、祝日、祝日の振替休日は除く)
- (2) 営業時間は、営業日の9時～18時とする。
- (3) サービス提供時間は、水曜日・木曜日・金曜日は10～17時、土曜日は10～15時とする。
なお、学校休校期間および長期休業期間は、水曜日・木曜日・金曜日・土曜日の10～15時とする。

第5章 サービスの内容及び利用者から受領する費用の額

(放課後等デイサービスの内容)

第19条 放課後等デイサービスに係る指定通所支援(以下「指定放課後等デイサービス」という)の事業は、対象児が生活能力の向上のために必要な訓練を行い、及び社会との交流を図ることができるよう、対象児の身体及び精神の状況並びにその置かれている環境に応じて適切かつ効果的な指導及び訓練を行うものとする。

(受給資格の確認)

第20条 事業者は、指定放課後等デイサービスの提供を求められた場合は、通所給付決定保護者の提示する通所受給者証によって、通所給付決定の有無、通所給付決定をされた指定通所支援の種類、通所給付決定の有効期間、支給量等を確認するものとする。

(障がい児通所給付費の支給の申請に係る援助)

第21条 事業者は、指定放課後等デイサービスに係る通所給付決定を受けていない者から利用の申込みがあった場合、その方の意向を踏まえて速やかに障がい児通所給付費の支給の申請が行われるように必要な援助を行うものとする。

- 2 事業者は、指定放課後等デイサービスに係る通所給付決定に通常要すべき標準的な期間を考慮し、通所給付決定の有効期間の終了に伴う障がい児通所給付費の支給申請について、必要な援助を行うものとする。

(内容及び手続の説明及び同意)

第22条 事業者は、通所給付決定保護者が指定放課後等デイサービスの利用の申込みを行った際、当該利用申込を行った通所給付決定保護者(以下「利用申込者」という。)に係る対象児の障がい特性に応じた適切な配慮をしつつ、当該利用申込者に対し、運営規程の概要、従業員の勤務体制その他の利用申込者のサービスの選択に資すると認められる重要事項を記した文書を交付して説明を行い、当該指定放課後等デイサービスの提供の開始について、当該利用申込者の同意を得なければならない。

- 2 事業者は、社会福祉法(昭和二十六年法律第四十五号)第七十七条の規定に基づき書面の交付を行う場合、対象児の障がいの特性に応じた適切な配慮をしなければならない。

(サービスの提供の記録)

第23条 事業者は、指定放課後等デイサービスを提供した際、当該指定放課後等デイサービスの提供日、内容その他必要な事項を当該指定放課後等デイサービスの提供の都度記録するものとする。

2 事業者は、前項の規定による記録に際して、通所給付決定保護者から指定放課後等デイサービスを提供したことについて確認を受けるものとする。

(契約支給量の報告等)

第24条 事業者は、指定放課後等デイサービスを提供する際、当該指定放課後等デイサービスの内容、通所給付決定保護者に提供することを契約した指定放課後等デイサービスの量（次項において「契約支給量」という。）その他の必要な事項（第三項及び第四項において「通所受給者証記載事項」という。）を通所給付決定保護者の通所受給者証に記載するものとする。

2 契約支給量の総量は、当該通所給付決定保護者の支給量を超えてはならない。

3 事業者は、指定放課後等デイサービスの利用に係る契約をした際、通所受給者証記載事項その他の必要な事項を市町村に対し遅滞なく報告するものとする。

4 前三項の規定は、通所受給者証記載事項に変更があった場合について準用する。

(事業者が通所給付決定保護者に求めることのできる金銭の支払の範囲等)

第25条 事業者が、指定放課後等デイサービスを提供する通所給付決定保護者に対して金銭の支払を求めることができるのは、当該金銭の使途が直接通所給付決定に係る対象児の便益を向上させるものであり、当該通所給付決定保護者に支払を求めることが適当であるものに限る。

2 前項の規定により金銭の支払を求める際、当該金銭の使途及び額並びに通所給付決定保護者に金銭の支払を求める理由について書面によって明らかにするとともに、通所給付決定保護者に対して説明を行い、同意を得なければならない。ただし、次条第一項から第三項までに規定する支払について、この限りでない。

(通所利用者負担額に係る管理)

第26条 事業者は、通所給付決定に係る対象児が同一の月に当該事業者が提供する指定放課後等デイサービス及び他の指定障害児通所支援事業者等が提供する指定通所支援を受けた場合において、当該児の通所給付決定保護者から依頼があった場合、当該指定放課後等デイサービス及び当該他の指定通所支援に係る通所利用者負担額の合計額（以下この条において「通所利用者負担額合計額」という。）を算定するものとする。この場合において、当該事業者は、当該指定放課後等デイサービス及び当該他の指定通所支援の状況を確認の上、通所利用者負担額合計額を市町村に報告するとともに、当該通所給付決定保護者及び当該他の指定通所支援を提供した指定障害児通所支援事業者等に通知するものとする。

(障害児通所給付費の額に係る通知等)

第27条 事業者は、法定代理受領により指定放課後等デイサービスに係る障がい児通所給付費の支給を受けた場合、通所給付決定保護者に対し、当該通所給付決定保護者に係る障がい児通所給付費の額を通知するものとする。

2 事業者は、法定代理受領を行わない指定放課後等デイサービスに係る費用の額の支払を受けた場合、その提供した指定放課後等デイサービスの内容、費用の額その他必要と認められる事項を記載したサービス提供証明書を通所給付決定保護者に対して交付するものとする。

(通所利用者負担額の受領)

第28条 指定放課後等デイサービス事業者は、指定放課後等デイサービスを提供した際、通所給付決定保護者から当該指定放課後等デイサービスに係る通所利用者負担額の支払を受けるものとする。尚、利用日のおやつ代50円、教材費100円、他実費は別途支払を受けるものとする。

2 指定放課後等デイサービス事業者は、法定代理受領を行わない指定放課後等デイサービスを提供した際、通所給付決定保護者から、当該指定放課後等デイサービスに係る指定通所支援費用基準額の支払を受けるものとする。

3 指定放課後等デイサービス事業者は、前二項の支払を受ける額その他、指定放課後等デイサービスにおいて提供される便宜に要する費用の内、日常生活において通常必要となるものに係る費用であって、通所給付決定保護者に負担させることが適当と認められるものの額の支払を通所給付決定保護者から受けることができる。

4 指定放課後等デイサービス事業者は、前三項の費用の額の支払を受けた場合、当該費用に係る領収印を当該費用の額を支払った通所給付決定保護者に示すものとする。

5 指定放課後等デイサービス事業者は、第三項の費用に係るサービスの提供に当たって、予め通所給付決定保護者に対し、当該サービス内容及び費用について説明を行い、通所給付決定保護者の同意を得なければならない。

(通所給付決定保護者に関する市町村への通知)

第29条 事業者は、指定放課後等デイサービスを受けている対象児に係る通所給付決定保護者が偽りその他不正な行為によって、障がい児通所給付費の支給を受け、又は受けようとした際、遅滞なく、意見を付してその旨を市町村に通知するものとする。

第6章 通常の事業の実施地域

(通常の事業の実施地域)

第30条 通常の事業の実施地域は、和水町及び南関町の全域および玉名市の一部(玉陵中・玉名中校区)、山鹿市の一部(山鹿中・鹿北中校区)、玉東町の一部(木の葉小校区)とする。

第7章 サービス利用に当たっての留意事項

(サービス利用に当たっての留意事項)

第31条 サービス提供に先立って、受給者証に記載された支給量・支給内容・利用者負担上限月額を通所給付決定保護者に確認する。受給者証の住所、支給量などに変更があった場合は速やかに事業者へ報告するものとする。

2 確認した支給決定内容に沿い、通所給付決定保護者及び対象児の生活に対する意向に配慮しながら個別支援計画を作成する。作成した個別支援計画については、原案の段階で、通所給付決定保護者及び対象児に内容を説明し、通所給付決定保護者の同意を得た上で成案とする。

3 個別支援計画は、対象児の心身状況や意向などの変化により、必要に応じ変更する。

第8章 緊急時等における対応方法及び非常災害対策

(緊急時等の対応)

第32条 指定放課後等デイサービス事業所の従業者は、指定放課後等デイサービスの提供を行っている際、対象児に病状の急変が生じた場合その他必要な場合、速やかに医療機関への連絡を行う等の必要な措置を講じなければならない。

(非常災害対策)

第33条 事業者は、消火設備その他の非常災害に際して必要な設備を設けるとともに、非常災害に関する具体的計画を立て、非常災害時の関係機関への通報及び連絡体制を整備し、それらを定期的に従業者に周知するものとする。

2 事業者は、非常災害に備えるため、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行うものとする。

(事故発生時の対応)

第34条 事業者は、対象児に対する指定放課後等デイサービスの提供により事故が発生した場合、速やかに都道府県、市町村、当該児の家族等に連絡を行うとともに、必要な措置を講じなければならない。

2 事業者は、前項の事故の状況及び事故に際して採った処置について、記録しなければならない。

3 事業者は、対象児に対する指定放課後等デイサービスの提供により賠償すべき事故が発生した場合、損害賠償を速やかに行わなければならない。

第9章 その他運営に関する重要事項

(連絡調整に対する協力)

第35条 事業者は、指定放課後等デイサービスの利用について市町村又は障がい児相談支援事業を行う者（以下「障害児相談支援事業者」という。）が行う連絡調整に、できる限り協力しなければならない。

(勤務体制の確保等)

第36条 事業者は、対象児に対し、適切な指定放課後等デイサービスを提供することができるよう、指定放課後等デイサービス事業所ごとに、従業者の勤務の体制を定めておかななければならない。

2 事業者は、指定放課後等デイサービス事業所ごとに、当該指定放課後等デイサービス事業所の従業者によって指定放課後等デイサービスを提供するものとする。ただし、対象児の支援に直接影響を及ぼさない業務については、この限りでない。

3 事業者は、従業者の資質の向上のために、その研修の機会を確保するものとする。

(衛生管理等)

第37条 事業者は、対象児の使用する設備及び飲用に供する水について、衛生的な管理に努め、又は衛生上必要な措置を講ずるとともに、健康管理等に必要となる機械器具等の管理を適正に行うものとする。

2 事業者は、指定放課後等デイサービス事業所において感染症又は食中毒が発生し、又はまん延しないように必要な措置を講ずるよう努めるものとする。

(協力医療機関)

第38条 事業者は対象児の病状の急変等に備えるため、予め協力医療機関を定めておくものとする。

(掲示)

第39条 事業者は、指定放課後等デイサービス事業所の見やすい場所に、運営規程の概要、従業員の勤務の体制、前条の協力医療機関その他の利用者のサービスの選択に資すると認められる重要事項を掲示するものとする。

(秘密保持等)

第40条 指定放課後等デイサービス事業所の従業者及び管理者は、正当な理由がなく、その業務上知り得た対象児又はその家族の秘密を漏らしてはならない。

2 事業者は、従業者及び管理者であった者が、正当な理由がなく、その業務上知り得た対象児又はその家族の秘密を漏らすことがないように、必要な措置を講じなければならない。

3 事業者は、指定障がい児入所施設等（法第二十四条の二第一項に規定する指定障がい児入所施設等をいう。）、指定障がい福祉サービス事業者等（障がい者総合支援法第二十九条第二項に規定する指定障がい福祉サービス事業者等をいう。）その他の福祉サービスを提供する者等に対して、対象児又はその家族に関する情報を提供する際は、予め文書により当該児又はその家族の同意を得ておかなければならない。

(情報の提供等)

第41条 事業者は、指定放課後等デイサービスを利用しようとする対象児が、これを適切かつ円滑に利用できるように、当該事業者が実施する事業の内容に関する情報提供を行うよう努めるものとする。

2 事業者は、広告をする場合において、その内容を虚偽のもの又は誇大なものとしてはならない。

(利益供与等の禁止)

第42条 事業者は、障がい児相談支援事業者若しくは障がい者総合支援法第五条第十六項に規定する一般相談支援事業若しくは特定相談支援事業を行う者（次項において「障がい児相談支援事業者等」という。）、障がい福祉サービスを行う者等又はその従業者に対し、対象児又はその家族に対して当該事業者を紹介することの対償として、金品その他の財産上の利益を供与してはならない。

2 事業者は、障がい児相談支援事業者等、障がい福祉サービスを行う者等又はその従業者から、対象児又はその家族を紹介することの対償として、金品他の財産上の利益を収受してはならない。

(苦情解決)

第43条 事業者は、その提供した指定放課後等デイサービスに関する対象児又は通所給付決定保護者その他の当該児の家族からの苦情に迅速かつ適切に対応するために、苦情を受け付けるための窓口を設置する等の必要な措置を講じなければならない。

2 事業者は、前項の苦情を受け付けた場合には、当該苦情の内容等を記録するものとする。

3 事業者は、その提供した指定放課後等デイサービスに関し、法第二十一条の五の二十一第一項の規定により都道府県知事又は市町村長（以下この項及び次項において「都道府県知事等」という。）が行う報告若しくは帳簿書類その他の物件の提出若しくは提示の命令又は当該職員からの質問若しくは事業所の設備若しくは帳簿書類その他の物件の検査に応じ、及び対象児又は通所給

付決定保護者その他、当該家族からの苦情に関して都道府県知事等が行う調査に協力するとともに、都道府県知事等から指導又は助言を受けた場合は、当該指導又は助言に従って必要な改善を行うものとする。

4 事業者は、都道府県知事等からの求めがあった場合には、前項の改善の内容を都道府県知事等に報告するものとする。

5 事業者は、社会福祉法第八十三条に規定する運営適正化委員会が同法第八十五条の規定により行う調査又は斡旋にできる限り協力するものとする。

(地域との連携等)

第44条 事業者は、その運営に当たって、地域住民又はその自発的な活動等との連携及び協力を行う等の地域との交流に努めるものとする。

(記録の整備)

第45条 事業者は、従業者、設備、備品及び会計に関する諸記録を整備しておくものとする。

2 事業者は、対象児に対する指定放課後等デイサービスの提供に関する次の各号に掲げる記録を整備し、当該指定放課後等デイサービスを提供した日から五年間保存する。

一 指定放課後等デイサービスに係る必要な事項の提供の記録

二 個別支援計画

三 市町村への通知に係る記録

四 身体拘束等の記録

五 苦情の内容等の記録

六 事故の状況及び事故に際して採った処置についての記録

(その他)

第 46 条 この規程に定める事項の他、運営に関する重要事項は、特定非営利活動法人くまもとスローワーク・スクールの管理者との協議に基づいて定める。

附 則

1 この規程は、平成三〇年五月一六日から施行する。

2 この規定は、令和二年四月一日から施行する。